


園だより 12月

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。

その名はインマヌエルと呼ばれる。」

マタイによる福音書 1章 23節



温暖化だからでしょうか、今年も日差しの強さを感じながらの秋を子どもたちと過ごした11月となりました。秋の実りに感謝し、年長手作りのお味噌を使ったスープをみんなで頂くスープパーティー。今年も年長の子どもたちはその時をどの様に過ごそうかを話し合い、準備し作り、全園児で嬉しく感謝をして頂きました。

また、虹の会バザー担当の方々が中心となってくださり、園内限定で開催された KOTO わくわくまつり、幼稚園とコミュニティセンターが協働できた YMCA らしさに溢れた一日となりました。出来得る限りの感染症対策をしつつ、工夫し過ごした秋ならではの日に感謝でした。

幼稚園はクリスマスを待ち望む「アドヴェント」の期間に入りました。お部屋の様子が変わり、クリスマスがやってくることを伝えるオーナメントを大切に作り、飾りながら過ごす日々。毎日届くアドヴェントカレンダーの「ひかり」が自分に届く日を待ち望み、届いたお友だちの喜びと一緒に喜ぶクリスマスまでの日々。大切に語られる神様のお話、本当のクリスマスのお話により毎日耳を傾けながら、子どもたちの心はクランツの灯りのように優しく温かに輝いています。

順番が決まっているわけでもなく、届くための約束が有るわけでもなく、早く届くこと、もしくは遅く届くことが良いのでもない、その子の届く日に届く「ひかり」。「待ち望む」ことに少しずつ喜びを感じている年少組の子どもたち、微笑ましい限りです。経験によってちゃんと届くことを確信している年中、長組の子どもたち、余裕です。でも、もしかしたら「今日届いているかも」と心なしか朝の挨拶にそわそわ感が伝わって来ます。どの姿もアドヴェントのときならではのそれぞれの様子です。一人ひとり大切に「待つ」というときを経験しています。恵みのときです。また、ひかりが届く喜びの出来事は、自分だけの喜びに留まらず、クラス、幼稚園みんなの喜びにもなること、お友だちの喜びは自分の喜びにもなること、待っていた「ひかり」が届く経験によって心に刻まれ、子どもたちの他者を思う心の育みとなります。

12月はお家の方と一緒に嬉しいクリスマスをお祝いし、温かな心で二学期の終了を迎えたいと願います。神様の恵み溢れる中で。

園長 駿河 幸子

